

利府梨とおこし隊

利府町の特産である梨の栽培は約130年前より始まった。現在は「利府梨ブランド」として定着しているが、高齢化による担い手不足で生産者が毎年減少し、現在65戸とピーク時の半分以下となっている。



(左から) 近江貴之さんと吉川一利さん

このような中、吉川一利さん（30歳）と近江貴之さん（35歳）の若者二人が脱サラし転身、梨の生産限定で昨年地域おこし協力隊として着任した。地元生産者から3年間の研修を受けているが、新たに若い二人が加わったことで、地元では後継者としての期待が高まる。

二人は試行錯誤しながらではあるが、地元生産者の梨枝の剪定などの作業を行っているほか、梨の実のフルーツ炭や梨のスパイシーカレーなどの新商品の開発、SNSでの情報発信と日々奮闘中だ。

今後「新規就農を目指しながら、梨を取り巻く課題への取り組みや梨のブランド力の強化、また、地元の人との関わりを深くすることで、伝統の梨を守りながら新しい梨を通じた輪を広げ、町を盛り上げていきたい」と二人は力強く語る。